

薬学部 薬学科 カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

薬学部は、「薬学は医療を通じて人類の健康に貢献する総合科学である」との理念の下に、教養教育で身につけた幅広い分野の知識を素地とし、専門教育において薬剤師の職能、医薬品の創製・保健衛生に関わる基本知識、及び生命科学を基盤とする高度の“薬学的”思考力と倫理観を身に付けます。特に、高度化する医療において薬物治療の指導者、及び疾病の予防及び治療に貢献する人材を目指し、豊かな人間性、柔軟な社会性、医療における倫理観をもち、医療系薬学及び衛生・社会系薬学を中心とした応用的学問を身に付け、薬学科の学修成果を達成すべく編成された教育課程を学修し、所定の単位を取得した者に学士（薬学）の学位を授与します。

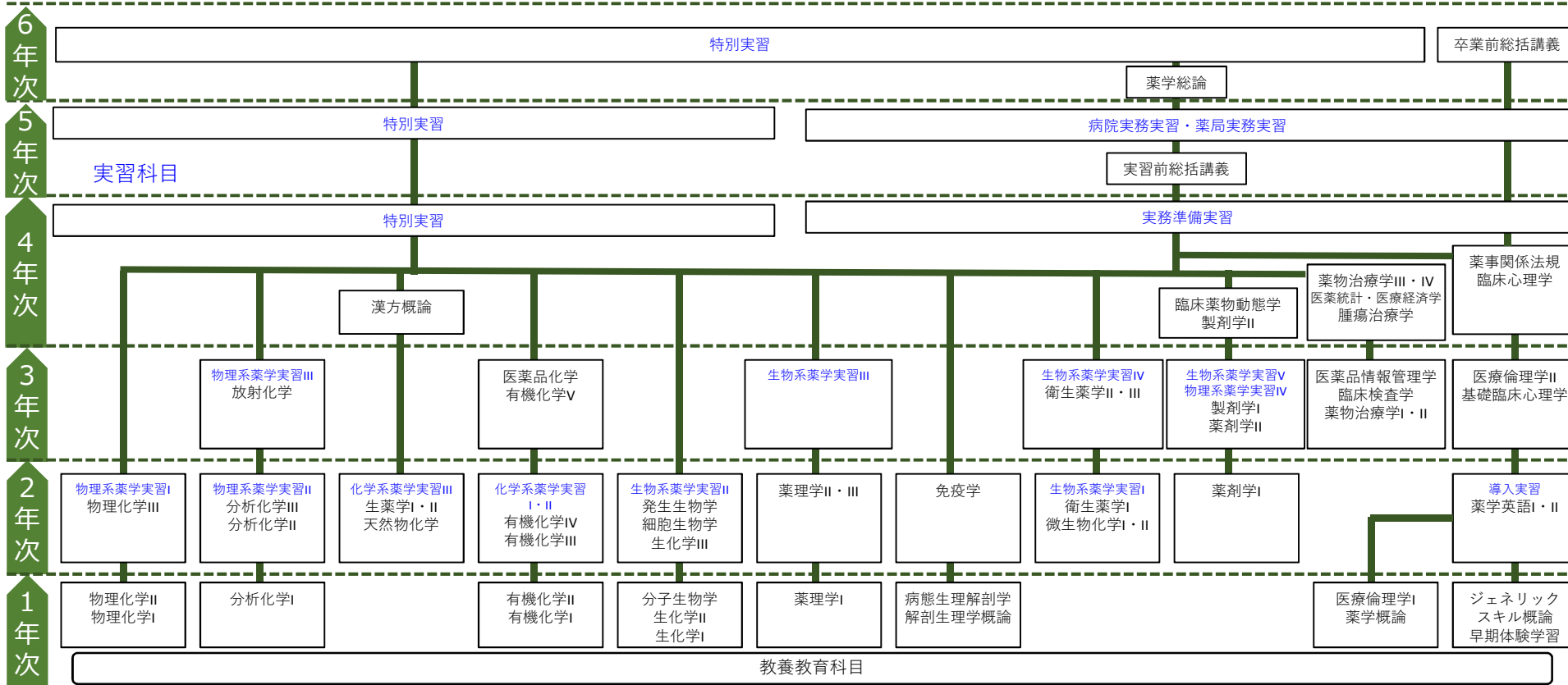
カリキュラムポリシー：

編成方針：教養教育では多様な分野にふれ、より深く豊かな教養を身につけることができるように幅広い科目を活用し専門教育で学ばない領域の履修を推奨します。専門教育では、低学年次で基礎科学的課目を学修し、徐々に薬学的応用科目へと遷移し、高学年次では高度な薬学的実践科目が学修できるように編成しています。5年次に薬剤師実務の学修のための長期実習実施するだけでなく、3年次より研究室配属を行い、研究マインドと高度な論理的思考力の修得も可能なように編成しています。

教育・学習方法に関する方針：教育目標への到達に適した学修方法として、アクティブラーニング、スモールグループディスカッション、オンライン学習を取り入れた講義、演習や実習、研究室における長期課題研究等を行います。講義においては知識の理解と定着を行い、演習や実習では知識の活用と主体的な思考力を涵養します。

評価の方針：カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して周知します。

豊かな教養	確かな専門性	創造的な知性	社会的な実践力	グローバルな視野	情報通信技術の活用力	汎用的な知力
<ul style="list-style-type: none"> 言語、歴史などを学ぶことにより、外国と日本の文化について理解し比較することができる。 英語による日常会話での質疑応答ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学、物理、生物に関する基本的事項を理解し説明できる。 製剤、薬剤、薬物治療に関する基本的事項を理解し説明できる。 数学・統計学に関する基本的知識を修得し、薬学領域に適用することができる。 病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を理解し、実践できる。 医療および薬事関係法規に関する基本的事項を理解し、遵守できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識を理解し実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命に関わる職業人にふさわしい行動・態度をとることができる。 地球環境保護活動により地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、などの観点から説明できる。 学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、学術会議などで必要とされる実用的英語を利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピューターやインターネットの利用法を理解し、情報の収集・発信ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションにより、情報・意志の伝達を行うことができる。



薬学部 創薬生命薬科学科 カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

薬学部は、「薬学は医療を通じて人類の健康に貢献する総合科学である」との理念の下に、教養教育で身につけた幅広い分野の知識を素地とし、専門教育において薬剤師の職能、医薬品の創製・保健衛生に関わる基本知識、及び生命科学を基盤とする高度の“薬学的”思考力と倫理観を身に付けます。特に創薬生命薬科学科においては創薬科学や生命薬科学分野の研究に寄与できる人材を目指し、独創的な発想力、探求心、創薬マインドを持ち、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学を中心とした広い知識を身に付け、創薬・生命薬科学科の学修成果を達成すべく編成された教育課程を学修し、所定の単位を取得した者に学士（創薬科学）または学士（生命薬科学）の学位を授与します。

カリキュラムポリシー：

編成方針：教養教育では多様な分野にふれ、より深く豊かな教養を身につけることができるように幅広い科目を活用し専門教育で学ばない領域の履修を推奨します。専門教育では、低学年次で基礎科学的課目を学修し、徐々に薬学的応用科目へと遷移し、高学年次では高度な薬学的実践科目が学修できるように編成しています。
 教育・学習方法に関する方針：教育目標への到達に適した学修方法として、アクティブラーニング、スモールグループディスカッション、オンライン学習を取り入れた講義、演習や実習、研究室における長期課題研究等を行います。講義においては知識の理解と定着を行い、演習や実習では知識の活用と主体的な思考力を涵養します。
 評価の方針：カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して周知します。

豊かな教養 ・言語、歴史などを学ぶことにより、外国と日本の文化について理解し比較することができる。 ・英語による日常会話での質疑応答ができる。	確かな専門性 ・化学、物理、生物に関する基本的事項を理解し説明できる。 ・製剤、薬剤、薬物治療に関する基本的事項を理解し説明できる。 ・数学・統計学に関する基本的知識を修得し、薬学領域で応用できる。 ・医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的事項を理解し説明できる。 ・ゲノム情報の利用に関する基本的事項を理解し説明できる。 ・医療および薬事関係法規に関する基本的事項を理解し、遵守できる。	創造的な知性 ・研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識を理解し実践できる。	社会的な実践力 ・生命に関わる職業人にふさわしい行動・態度をとることができる。 ・地球環境保護活動により地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現できる。	グローバルな視野 ・日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、などの観点から説明できる。 ・学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、学術会議などで必要とされる実用的英語を利用できる。	情報通信技術の活用力 ・コンピューターやインターネットの利用法を理解し、情報の収集・発信ができる。	汎用的な知力 ・プレゼンテーションにより、情報・意志の伝達を行うことができる。
--	---	--	--	--	---	---

